



特別
千12
3643
7(2)



楠
露

梅若誠太郎
昭和五年十月廿五日
梅若重戶氏
寄贈
新嘉坡圖書館

楠露



^{正成}是ハ楠正成あり。相を朝敵そ氏
 大挙して上洛せしむ。軍し運
 多き正成小弛向ひ義貞ふ力成
 合勢よとの宣旨ふ似せ。只今兵庫
 乃津へ死下りゆ。又た子細の中間
 正行を回々へ帰さる。おのひを

弓箭の家ふ生まじ父老宿期をよ
そふ見く、雖ふ面をむ事ゆき
唯く百身して給り也 正 出づり
き事をやまのれ、是皆朝廷の御為
あまは、やましく千早に帰り也
ぬ何ふ君の御為ありとも、我歸る事ハ
なりか、^正や河加福まで父がや

事ハ臨むもやと、恩愛純子を吐り
此れハ、^上正行を満つを、^ア何と
いふべき言は、^ア茶も、^スあしく、^ス袖を
志は、^アつが、^アこよ、^アた、^アま、^アま、^アの、^アま
く、^正は、^正上と、^正語、^正く、^正軍、^正せ、^正ゆ、^正へ、^正
備を、^キ逆、^キ徒、^キ等、^キ氏、^キ兄、^キ弟、^キ西、^キ海、^キより、^キ大、^キ軍
を、^ヒ卒、^ヒひ、^ヒ上、^ヒ洛、^ヒは、^ヒま、^ヒぎ、^ヒよ、^ヒ一、^ヒ教、^ヒ軍、^ヒふ、^ヒ達、^ヒ

急ぎ正成小馳向ひ義貞をろとも
追伐さききとの勅定なる正成謹て
中よる極さけ交逆徒孫登る事
何んといひ大軍といひ當まつ海
官軍をもろく喰ふらん中く
ねもよる義貞をめかへられ今
一度教之行幸か甘をあはは

定逆後上洛仕へし其時正成々
糧道をもち義貞と内外より責
ゆえんふれあぐハ恐あぐは勝利歎
ひ有へるまを心勝の計義中よる
とつて坊門扇結せしを改り
防戦も定る事偏小天運乃宛里
あり夫日月も明りあまやも

雲霧が光を垂流ふたはりの今和ふは
しめぬるあまとも教きてもあるは
まらあま 良薬は苦く忠言
耳ふ逆ふと云其故事を終り給ひ
藤房法師の世を道ま今正成が首
途を曳はえも一長士の 箭竹
終らふ清く世を諫めんと思ふ也

獅子の子を生く三日を終る時々
教ふ其の者より是をなけてころ
らるる獅子の機か何ま教さるる
宙よりは福をば死をばと入り況や
正行十歳ふ餘りぬ一二を耳ふ留め
つば教誡ふ違ふを道討死と
とそも教を止めつぐ追々朝敵をた

いげく運地しき人事を思
ふべし 正 たとひ逆賊日有奉り
時を及しけしをなすとも命の
ら母を祀りて帝后を守護し
々々の心神あきけし流名を
事あるまじおひやきおひ梅子ふか
不潔や捕の毛髪 時 色比る月

雨にふる枝も志なき草の常ふ志
花をかりてまの常ふ梅
井の名もたも有て朽ちぬ石
あるてふまのまのうらも何り
あまぎかる 正 鄙人までも
恩愛 親子 主従忠 別業を今
更ふ涙を袖ふ満つが古歌ふまを





